



カガクでネガイをカナエル会社

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月12日(金)

株式会社 **力ネ力**

INDEX

業績概要	01
セグメント別 売上高・営業利益	02
全社業績についてのRemarks	03
事業概況	05
貸借対照表	09
キャッシュ・フロー計算書	10
設備投資額・減価償却費 / 研究開発費	11
株主還元	12
連結業績予想などの将来予測情報	13

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期	増減	
			金額	%
売上高	6,915	7,558	643	9.3%
営業利益	436	351	△ 85	△19.5%
経常利益	408	324	△ 84	△20.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	265	230	△ 35	△13.1%
営業利益率	6.3%	4.6%		
1株当たり当期純利益	406.01円	349.59円		
1株当たり配当金	110.00円	110.00円		
ROE（自己資本当期純利益率）	7.1%	5.7%		

為替・原料価格

期中平均レート（米ドル）	112.4円	135.5円
期中平均レート（ユーロ）	130.6円	141.0円
国産ナフサ	56,625円	76,625円

2023年2月8日開示 業績予想 ＜通期＞	対業績予想 ＜達成率＞
7,560	99.9%
365	96.1%
340	95.3%
240	95.9%

世界経済の状況－景気の減速感が強まり、経済は全体として停滞－

- コロナ禍から回復が進む一方でウクライナ情勢が膠着し、エネルギー・資源価格の高騰、インフレの進行と金融引き締めが複雑に絡みながら減速感が強まっている
- 事業環境がますます不透明感を増すなか、当社は時代認識を研ぎ澄まし、Adaptability力を一層高め、ポストコロナの世界に立ち向かっていく

カネカグループの業績－増収減益ながら先端事業群は伸長－

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	売 上 高											
	2022年3月期					2023年3月期					増減	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	年度累計	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	年度累計	金額	%
Material SU	700	709	763	827	2,999	889	840	778	831	3,339	339	11.3%
Quality of Life SU	409	419	434	429	1,691	450	422	438	418	1,728	37	2.2%
Health Care SU	132	134	154	169	589	166	174	187	181	708	118	20.1%
Nutrition SU	398	397	431	400	1,626	419	441	460	454	1,773	148	9.1%
その他	3	2	2	3	11	3	2	2	3	11	0	1.1%
計	1,641	1,662	1,784	1,828	6,915	1,927	1,879	1,865	1,887	7,558	643	9.3%

	営 業 利 益											
	2022年3月期					2023年3月期					増減	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	年度累計	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	年度累計	金額	%
Material SU	93	87	83	101	364	108	79	38	50	274	△ 89	△24.6%
Quality of Life SU	46	47	45	32	169	46	41	44	31	161	△8	△4.8%
Health Care SU	23	29	32	42	127	39	37	45	37	157	30	23.8%
Nutrition SU	14	7	16	14	51	8	13	23	32	76	25	49.2%
その他	2	1	1	2	5	2	1	1	2	6	1	10.6%
調整額	△ 60	△ 59	△ 73	△ 89	△ 280	△ 80	△ 85	△ 82	△ 76	△ 323	△43	-
計	118	112	103	102	436	122	86	68	75	351	△85	△19.5%

※SU : Solutions Unit

全社業績についてのRemarks

Material系の需要調整が影響、ポートフォリオ変革は着実に進展

Material系やエレクトロニクス市場の需要調整長引く

2 Q以降の世界的な景気減速の広がりに伴い、Material系の需要減継続に加え、E&Iのサプライチェーンにおける需給調整も長期化。需要の調整局面は3 Qで底打ちし、4 Qは回復の動きが始まったものの想定を下回る

- Vinyls：塩ビのアジア市況が低調に推移
MOD：回復を期待していた欧米建材・建築市場低迷継続
- E&I：2 Q以降スマートフォンおよび大型TVの需要調整が長引き、業績は低調に推移
Fiber：アフリカ諸国のインフレ高進を背景に頭髮向け需要が低調
いずれも4 Qから徐々に回復基調、次期において本格的な市場回復が期待される

先端事業群が順調に伸長

先端事業群のHealth Care SU、Supplement、PVは、世界経済が混迷するなかでも健康、地球環境・エネルギーの危機に対するソリューションを提供することで着実に伸長

- Medical：血液浄化器、カテーテルは国内外で販売が伸長
Pharma：バイオCDMO、低分子医薬が順調に業績を伸ばす
Supplement：還元型Q10に加え乳酸菌事業が戦力化
- PV：世界的エネルギー危機のなか、住宅用太陽電池の需要拡大、自己託送やマイクログリッドなどCO₂削減に寄与する取り組みが進展。車載用PVの本格出荷開始

全社業績についてのRemarks

次の成長に向けた資源投入が進む

先端事業領域で大型投資を決定し、次年度以降の事業成長に向けた生産体制基盤を強化

- Medicalは、カテーテルのベトナム工場の増設工事が8月に完工、北海道の血液浄化器新工場も2024年稼働を目指し建設が順調に進行。Pharmaのカネカユーロジェンテックでは、感染症ワクチンに加え遺伝子治療やがん治療薬用で高成長が期待されるmRNA生産設備の能力増強決定
- Material系は、グローバルな需要増が見込まれるMSのベルギーでの能力増強を決定。PVは、住宅向け高効率太陽電池の需要増に対応しヘテロジャンクションPVの増産投資決定

事業環境が不透明ななかでも、先端事業の成長・収益拡大が続き、事業ポートフォリオの変革は着実に進展。先端事業領域での生産能力増強など更なる成長基盤の強化に重点的に取り組んでいく



事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高

3,339億円

前年比 +11.3%

2,999

22/3月期

23/3月期

営業利益

274億円

前年比 ▲24.6%

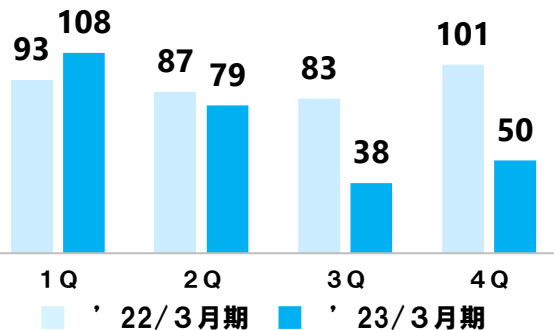
364

22/3月期

23/3月期

営業利益（四半期）

億円



2Q後半以降欧米、アジアの景気減速の影響を強く受け、増収減益

Vinyls and Chlor-Alkali

- 苛性ソーダは堅調に推移
- 塩ビのアジア市況は3Q以降低迷

Performance Polymers(MOD)

- 2Q以降欧米住宅向け硬質塩ビ用途の需要が低迷
- 非塩ビ用途の市場拡大に注力し、業績は4Qから回復

Performance Polymers(MS)

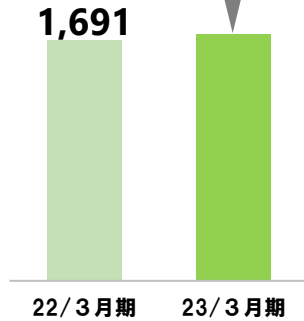
- 一時的な欧米の建築市場の需要低迷はあったものの需要基盤は底堅く推移
- 今後の成長に向けてベルギーでの能力増強を決定
- 米州の次期能力増強は最終検討段階

Green Planet

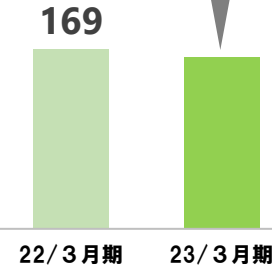
- 日米欧の大手ブランドホルダーとの共同開発は順調に進み、アプリケーションの拡大とともに販売は伸長
- 「バイオものづくり」の社会実装に向けたCO₂と水素からGreen Planetを生産する革新技术の研究開発に関し、3月にNEDOの「グリーンイノベーション基金事業」に採択

事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

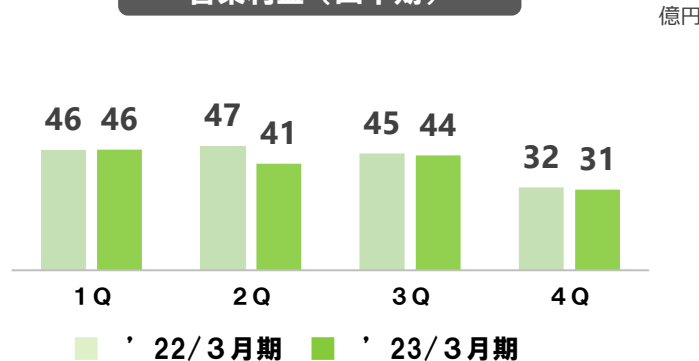
売上高
1,728億円
前年比 +2.2%



営業利益
161億円
前年比 ▲4.8%



営業利益 (四半期)



E&Iの需給調整の長期化の影響が大きく、増収減益

Foam & Residential Techs

- 国内販売の回復と価格改定によるスプレッド確保が寄与して業績が大きく改善
- 海外自動車分野の販売も回復基調

PV & Energy management

- 住宅向け高効率太陽電池の販売が伸長
- 東京都はじめ新築住宅へのPV設置義務化等の動きが拡大、各自治体からの問い合わせも活発化
- 車載用PVは、当社へテロ接合バックコンタクト型太陽電池がトヨタ自動車株式会社の「新型プリウスPHEV」のルーフガラス部分に採用、3月に販売開始

E & I Technology

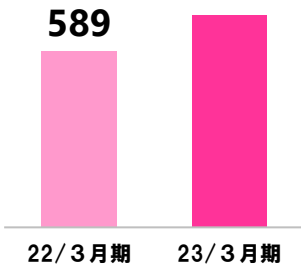
- 2Q以降スマートフォン、大型TV向け液晶パネルの大幅な生産調整が継続し、業績は低調に推移
- 5Gやフレキシブルディスプレイ、画像センサー用途など当社ならではの差別化新製品のラインアップに注力

Performance Fibers

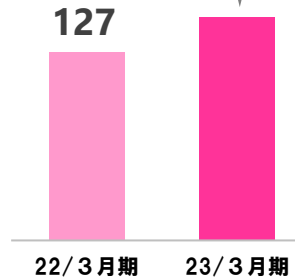
- アフリカ・米国のインフレ高進による頭髮製品の需要減、高機能新製品も投入し、4Qより需要が回復傾向

事業概況 (Health Care Solutions Unit)

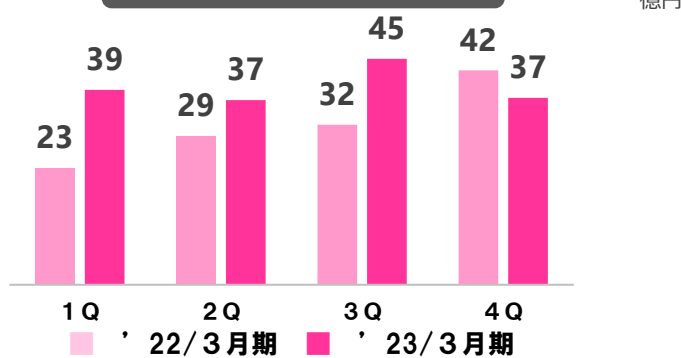
売上高
708億円
前年比 +20.1%



営業利益
157億円
前年比 +23.8%



営業利益 (四半期)



Medical、Pharmaとも好調に業績を拡大し、大幅な増収増益

Medical

- 血液浄化器およびカテーテルの販売が国内外で順調に拡大
- 最大の米国市場での販売体制強化も進めており、ベトナム、北海道での生産体制の強化も含め、Medical事業のグローバル展開を加速していく

Pharma

- カネカユーロジェンテックのバイオCDMO事業が順調に拡大
- 能力増強を決定したmRNAについては遺伝子疾患やがん治療薬用で高成長を期待、顧客からの引き合いが着実に増加
- 低分子医薬品では、新型コロナ治療薬「ゾコーバ[®]*1錠」向け中間体の販売が業績に貢献

*1 「ゾコーバ」は塩野義製薬株式会社の登録商標です。

事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高
1,773億円
前年比 +9.1%

1,626

22/3月期

23/3月期

営業利益
76億円
前年比 +49.2%

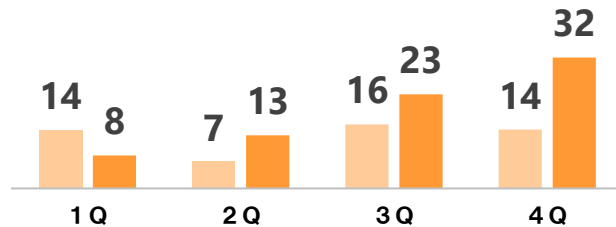
51

22/3月期

23/3月期

営業利益（四半期）

億円



22/3月期 23/3月期

Supplementの市場拡大とFoodsの収益改善により増収増益

Supplemental Nutrition

- アメリカ、日本、欧州、オセアニア、アジア（中国）で還元型Q10の販売が拡大
- 中国EC市場向けの販売を強化
- 乳酸菌事業も戦力化しており、グローバルなSupplementの生産販売体制の強化を急ぐ
- 機能性表示食品の品揃えを一層強化

Foods & Agris

- 高付加価値品の販売拡大と価格改定に精力的に取り組み、収益が大きく改善
- 8月に発売した「わたしのチカラQ10ヨーグルト」ドリンクタイプの販売が好調に推移しており、生産能力を2倍に増強
- カネカ食品の新しいECサイトを立ち上げるとともに、乳製品・パン・チョコレートなどのBtoC向けの販売体制を強化
- 新設したHealthy Foods Strategic Unitをドライバーとして、おいしさと健康をテーマに新たな価値を提供できる取り組みを強化

貸借対照表

(単位：億円)

		2022年3月末	2023年3月末	増減
資産の部	流動資産	3,629	3,970	341
	固定資産 等	3,640	3,857	216
	資産合計	7,270	7,826	557
負債の部	有利子負債	1,276	1,593	317
	その他	1,871	1,869	△ 2
	負債合計	3,148	3,462	315
純資産の部	自己資本	3,872	4,174	302
	非支配株主持分 他	251	191	△ 60
	純資産合計	4,122	4,364	242
負債、純資産 合計		7,270	7,826	557
自己資本比率		53.3%	53.3%	
D/E レシオ		0.33	0.38	
1株当たり純資産		5,934.36円	6,431.63円	

- 総資産は、売上高増加に伴う売掛金、棚卸資産の増加に加え、設備投資の拡大による固定資産増加、円安による海外グループ会社の円換算の資産額増加等により増加
- 負債は、借入金の増加等により増加
- 純資産は、利益剰余金の増加に加え、円安による為替換算調整勘定の増加等により増加
- 自己資本比率は前期末と同水準

キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	341	287
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 396	△ 420
フリー・キャッシュ・フロー	△ 55	△ 133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11	124
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 56	△ 0
現金及び現金同等物の期末残高	407	407

- 営業CFは、売上高増加に伴う運転資金の増加等の支出の一方、税金等調整前当期純利益や減価償却費等による収入より287億円の収入
- 投資CFは、有形固定資産の取得等による支出により420億円の支出
- 財務CFは、自己株式の取得や配当金の支払による支出の一方、借入金の増加による収入があり124億円の収入

設備投資額・減価償却費 ／ 研究開発費

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期	増減
設備投資額	377	443	66
減価償却費	377	392	15
研究開発費	309	327	18
研究開発費 売上高比率	4.5%	4.3%	

●主な設備投資

2023年3月期 実績

- Green Planet 15,000MT 実証設備取得
- 北海道におけるB L A新工場の建設
- Kaneka Belgium N.V. M S能力増強
- Kaneka Eurogentec S.A.におけるmRNAのGMP製造能力増強

株主還元

○自己株式取得 : 230万株（取得額80億円、取得期間2022/9/12～2023/3/20）
過去最大の金額規模となる自己株式取得

（単位：百万円、千株、円／株）

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
当期純利益	22,238	14,003	15,831	26,487	23,008
1株あたり純利益	339.15	214.70	242.68	406.01	349.59
1株あたり配当	100	100	100	110	110
配当性向	29.5%	46.6%	41.2%	27.1%	31.5%
自己株式取得数	400	—	—	—	2,300
自己株式取得額	1,741	—	—	—	8,042
総還元性向	37.3%	46.6%	41.2%	27.1%	66.4%

連結業績予想などの将来予測情報

カネカのパーパス経営

- 自然環境にますます負荷がかかり、人間の行動が危険な気候変動や大量絶滅をもたらしかねない状況の中、自然に対する理解を深め、適切なテクノロジーを一層迅速に配備する必要がある
- この視座こそが「カガクでネガイをカナエル会社ーカネカ」が目指すパーパス経営
- 環境・エネルギー、食糧、健康（よりよく生きる）の危機の三つをドメインとしてテクノロジーに磨きをかけ、社会実装化による最適なソリューションを提供する

「バイオものづくり」と化学が開くニューフロンティア

- 生命も地球も一つにつながっている。その共通のSubstanceは化学反応。どれもカネカがチャレンジしているニューフロンティアです
- カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet、ゲノム編集技術、バイオ医薬品、再生・細胞医療、有機酪農乳製品事業、サプリメント、発酵培養プロセス技術などカネカの「バイオものづくり」、PV Technology、E&I、医療器など、すべて「地球生命」という大きな「いのち」につながっており、化学が開くニューフロンティアです

連結業績予想などの将来予測情報

カネカの「ハイブリッド経営」

- イノベーションとは「違ったやり方でことを運ぶ新結合」のこと
異質なもののどうしを、異質な事業領域で、新しく組み合わせること
このことをカネカは「ハイブリッド経営」と呼んでいる
- バイオ技術×高分子技術を組み合わせた「生分解性バイオポリマー Green Planet」、Supplement×Foodsで
製品と製品を組み合わせた「わたしのチカラQ10ヨーグルト」など、多数の新結合が生まれ、順調に成長
- 今後も続々と当社のハイブリッド経営を牽引する製品、技術、事業が登場する

絆の再生 —Trust & Respect—

- コロナ禍の終わりは、「新しいTrust & Respect」の始まり。顧客が、仲間たちが、Trust & Respectを取り戻し、真のOne Teamを再生する
- Sustainability (SX) 本部のESG・健康経営活動を中心に、今年も「人間賛歌の経営」に取り組んでいく

戦略プラットフォーム 「3+5」の加速

- 3つのFocal Points（焦点）は、①命を育む人間性の回復“SX（Sustainability+DX）”、②M&Aによる構造改革の促進、③多様な人・事業領域・地域・技術に取り組むDiversityの促進
- ①アジア戦略の強化、②DXの推進、③カーボンニュートラルの推進、④アライアンス・M&A、⑤Diversity Committeeの5つの取り組みを強化し、変革と成長を加速する

連結業績予想などの将来予測情報

2024年3月期の連結業績見通し

(単位：億円)

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)	増 減	
			金額	%
売上高	7,558	8,000	442	5.8%
営業利益	351	420	69	19.7%
経常利益	324	385	61	18.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	270	40	17.3%
営業利益率	4.6%	5.3%		
1株当たり当期純利益	349.59円	416.06円		
ROE (自己資本当期純利益率)	5.7%	6.3%		
為替・原料価格				
期中平均レート (米ドル)	135.5円	130.0円		
期中平均レート (ユーロ)	141.0円	140.0円		
国産ナフサ	76,625円	63,000円		

連結業績予想などの将来予測情報

- 4月のIMF世界経済見通しは、GDP成長率2022年見込み:3.4%から2023年:2.8%へ鈍化と予測。インフレ抑制の金融政策の動向や金融システム不安、ウクライナ情勢の混迷と地政学的分断の拡大等のリスクが想定され、先行きの不透明感はますます強まっている

- 短期的には景気のリセッションや減速局面が想定されるなか、当社はAdaptability力をさらに発揮し、「選択と集中」に注力しながらSustainabilityの3つのクライシスをDomainとした事業ポートフォリオの変革に注力。革新的な素材開発（Breakthrough Technology）を進め、未来への投資である研究開発活動に経営資源を積極投入し、Solution Providerとしてユニークな製品や技術の社会実装を実現

連結業績予想などの将来予測情報

セグメント別業績見通し

(単位：億円)

	売上高				営業利益			
	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)	増減		2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	3,339	3,230	△ 109	△3.3%	274	275	1	0.2%
Quality of Life SU	1,728	2,120	392	22.7%	161	216	55	33.9%
Health Care SU	708	820	112	15.8%	157	177	20	12.9%
Nutrition SU	1,773	1,820	47	2.6%	76	86	10	13.4%
その他	11	10	△ 1	△6.9%	6	6	0	8.2%
調整額	-	-	-	-	△ 323	△ 340	△ 17	-
計	7,558	8,000	442	5.8%	351	420	69	19.7%

※SU : Solutions Unit

連結業績予想などの将来予測情報

- 先端事業は、Health CareのMedicalの血液浄化器・カテーテルの新製品投入とグローバル展開、Pharmaはバイオ医薬品、特にmRNA分野の市場拡大が進み、事業拡大の見通し。
Supplementは還元型Q10の海外各市場向けの増販が進展、乳酸菌事業も拡大の見込み。E&Iのスマートフォン向けポリイミドフィルム、TV向けアクリルフィルム用樹脂の市場回復を想定、MSも欧米での更なる市場拡大を見込む

- コア事業は、MODのグローバルな需要回復と非塩ビ用途市場拡大を見込むが、本格的回復は来期2Q以降になる予測。Foods & Agrisは、乳製品、健康素材、グローバル調達に重点的に資源投入、高付加価値品の販売拡大を進める
Performance Fibersはアフリカ市場での需要喚起策と差別化商品の投入を強化、スピーディに販売を回復・拡大させる

< お問い合わせ >

(株)力ネカ IR・広報(Investors & Public Relations)部

 **03-5574-8090**